

話題：葦の髄から覗いた中国事情

話者：江見俊彦 江蘇沙鋼鋼鉄研究院（北野 65 期）

話題概要

1970 年以來、国際会議や大学での講演を中心に、中国各地を旅した見聞。2007 年以降 江蘇省**に滞在し企業活動に従事した体験。以上を基にした、最近 10 年間の中国社会の（金、人、物、心）の激変の片鱗：

参考：中国に関する統計データ

2010	GDP/兆 \$ *	人口/億	GDP \$ /人	面積/百万 km ²	人/面積	平均寿命
日本	4.40	1.3	33885 (24)	0.38 (62)	334	79/86
中国	11.32	13.4	7544 (94)	9.61 (3)	139	72/75
インド	4.47	12.2	3408 (129)	3.24 (7)	377	63/65
米国	15.06	3.1	46860 (7)	9.63 (4)	32	76/81

*2011 IMF による購買力平価基準での推定。他は全て 2010 年基準。括弧内は順位。

**江蘇省は華東沿海州の

1 つ、GDP \$ /人は直轄市の上海 10828、天津 10400、北京 10378 に次ぎ 4 番目 7682。残り 1 直轄市、2 2 省、5 自治区、2 特別行政区中では 1 位の豊かな地域。

（1）金：経済運営に関し、GDP が世界 2 位。それを支える工業の基盤であり、生産量が過去 10 年に日本の 5 倍（沙鋼は 30 倍）と飛躍的に増えた、鉄鋼業の実例、（2）人：大学院に至るまでの、急速に発展しつつある教育事情の光と影、独特の就職、転職状況と昇給昇進方式、地域社会での暮らし、宗教、医療、育児、家族制度の変化の実例、（3）物：地域社会の産業、社会福祉と環境の基盤となる、陸上交通網、橋梁、海運、病院、住居、街区などの変貌、特に車社会の急速な発展の実例。（4）心：上記変化の過程で垣間見える中国人の意識、心性の変遷。

纏めに、政治、経済、軍事力の発展と共に膨らんできた中国の自信が惹き起こす様々な出来事と対応策。政治形態、政治効率の違いがもたらす日中間の国力の消長の差と将来についての感想。この様な中国と共生しつつ、日本の美しい国土と固有の文化、および（外交力、防衛力、経済力に支えられる）安全と繁栄を回復するための、我々のあらまほしき行動についての私見。

息抜きに中国内の壮大な様々の景観、特に 41 に及ぶ世界自然遺産、文化遺産の数例。

略歴：1958 阪大工卒、川崎製鉄(現 JFE スチール)入社、1965-1970 北大理研究員、ペンシルバニア大助手、ミシガン大 助教授、1993 まで現 JFE スチール 研究部長、研究企画部長、本社取締役 海外鉄鋼事業企画、知的財産、環境及びエネルギー担当、カリフォルニアスチール、AK-Steel（米）、ツバロン製鉄（伯）取締役兼務。1998 まで 東北大教授、定年退職。以降 2006 までスウェーデン王立工科大教授、メルボルン大名譽客員教授、マクマスタ大(加)、カーネギーメロン大(米)、ソウル国立大、浦項科技大、延世大(韓) 各客員教授。オランダ国立金属研究所科学技術審査員、2007 より現職。

受賞歴：鉄鋼協会学術賞、金属学会功績賞、米国鉄鋼学会名誉員、スウェーデン王立工学アカデミーブリネル賞、中国国家友誼賞、中国国家科学技術合作賞、など 30 件。招待講演：16 カ国 179 件。北京科学技術大及び 東北大(瀋陽)名誉教授。

以上